

平成 17 年度当初予算 重点プログラム別概要

絆 4 : 高速道路と市町村合併を支援する道路整備プログラム

(主担当部局 : 県土整備部)

- (1) 市町村合併支援道路整備事業 (県管理道路)
- (2) 市町村合併を支援する直轄道路事業
- (3) 高速道路に関連する用地取得対策事業
- (4) 高速道路に関連する施設整備事業
- (5) 高速道路に関連する市町村補助事業
- (6) 高速道路網に関連する直轄道路事業

< プログラムの事業費 >

(単位 : 千円)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	3 か年計
当初計画	12,839,231	12,903,000	13,052,000	38,794,000 程度
見直し後	12,753,970	12,874,202	13,160,000	38,788,172

注 : 見直し後の 16 年度は 12 月補正後予算額、17 年度は当初予算額、18 年度は同見込額

< 事業目標の見込み > 1 月末時点で把握できる見込み値を示しています。

目標項目		平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
(1)(2) 市町村合併を支援する 道路の供用延長 (累計)	目標値	4.4 k m	12.0 k m	24.1 k m
	実績値	4.4 k m		
(3)(4)(5)(6) 県内の高速道路 等の新規供用延長 (累計)	目標値	4.0 k m	17.5 k m	17.5 k m
	実績値	4.0 k m		

< 進捗状況 (現状と課題) >

- ・道路は県民の日常生活を支える大切な社会基盤であり、これまでも順次整備を進めてきました。しかし、幹線道路の渋滞や大雨による度重なる通行止めなど県民の不満や不安は解消されておらず、市町村合併をはじめとした新たな地域動向など、県民の道路整備に対する期待も大きなものがあります。
- ・道路は、さまざまな役割を担った道路が相互につながり、ネットワークを形成することにより効果的に機能するものであり、その根幹をなす高速道路の整備や市町村合併を支援する道路の整備を重点的に進めることにより、人や地域の活発な交流・連携が進み、より強い絆づくりが図られます。
- ・これらのことから、より一層計画的かつ着実に道路整備を推進する必要があります。
- ・なお、16 年度末には、事業目標の東名阪自動車道 (亀山直結線) 4.0 k m や県道一志美杉線等 4.4 k m の供用を図ります。

<平成 17 年度の取組方向>

人や地域の活発な交流につながる、高速道路と市町村合併を支援する道路を積極的に整備、促進するため、市町村合併を支援する県管理道路及び直轄道路の整備、高速道路網の整備に向けて高速道路関連事業などに取り組みます。

具体的には、近畿自動車道紀勢線（平成 17 年度完成予定の大宮大台 勢和多気間、新直轄区間の尾鷲北 紀伊長島間、熊野尾鷲道路）の整備促進や第二名神高速道路（四日市 亀山間）の早期事業着手、東海環状自動車道の整備促進及び北勢バイパスや中勢バイパスをはじめとした市町村合併を支援する道路整備など、県内道路網の整備について、国への働きかけも含め、一層の推進を図ります。

<主な事業>

市町村合併支援道路整備事業（県管理道路）【17 年度当初予算額 6,212,000 千円】
地域間の交流、連携が図られるように市町村合併を支援する県管理道路の整備を推進します。

市町村合併を支援する直轄道路事業【17 年度当初予算額 3,176,203 千円】
国が行う道路事業に対して負担金を支出し、県内の市町村合併を支援する幹線道路の整備促進を図ります。

高速道路に関連する用地取得対策事業【17 年度当初予算額 120,000 千円】
高速道路に関連する用地事務を支援し、円滑な事業促進を図ります。

高速道路に関連する施設整備事業【17 年度当初予算額 80,000 千円】
高速道路の整備に関連して必要となる河川、砂防施設等を整備します。

高速道路に関連する市町村補助事業【17 年度当初予算額 150,000 千円】
高速道路に関連して市町村が実施する道路等の事業に補助を行います。

高速道路網に関連する直轄道路事業【17 年度当初予算額 3,135,999 千円】
高速道路の整備にあわせ、直轄道路事業に負担金を支出し、県内の道路ネットワークの形成を促進します。